

技術情報

Technical Report & News

発行●全国クリーニング環境衛生同業組合連合会 クリーニング技術部会
編集●クリーニング総合研究所

January 1998

第27巻第10号- 1月号

年頭のご挨拶 1

技術情報

実践カウンターサービス

＝最近の事故事例に見る

カウンターでの事故防止対策＝ 3

- I. 受付から納品までの一般的な工程
- II. カウンターでの受付・点検の実際
- III. まとめ

＝シミ抜きの実践応用技術20＝ 11

ラーメン汁のシミ抜き方法

部会ニュース

トピックス 14

会員の皆様へ 15



クリーニング技術部会

年頭のご挨拶



クリーニング技術部会
部会長 村瀬 健一

新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様には、ご家族お揃いで良い年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

また、常任幹事をはじめ、組合幹事、組合員、関係会社諸団体の方々の暖かいご支援とご協力を賜り、つつがなく新年を迎えることができましたことに厚く御礼申し上げます。

昨年は、株価の暴落、金融機関の破綻など、社会生活に不安をもたらす事件が次々に起きた年でありました。また、地球温暖化防止に向けての国際会議が京都で開催されるなど、環境保全対策を地球規模で考え実践する時期が到来した感のある年でありました。

こうした厳しい社会情勢の中にあっても確かな技術を持つ我々は、顧客との信頼関係により将来へ仕事を継げて更に繁栄させていくことが可能であります。そして実践的技術には、「知識」と「応用実践力」の二つの面が要求されます。

技術部会では、皆様の繁栄・発展のために会誌「技術情報」の更なる内容の充実に努め、各ブロックにおける技術交流会を通じて会員の皆様に常に新しい情報を提供できるよう心掛け、お役に立てるよう努めて参る所存です。

本年も技術向上のため、一人でも多くの組合員各位にこの「技術情報」を購読いただくよう、皆様にも倍旧のご支援を賜りますようお願い申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。

新年明けましておめでとうございます

クリーニング技術部会

■部会長 村瀬 健一

■副部会長 山元 健司・衆 和男

北海道ブロック常任幹事	山元 健司	東北ブロック常任幹事	佐久間勝也
関東甲信越ブロック常任幹事	渡辺 勝郎	東京ブロック常任幹事	佐久間 久
神静ブロック常任幹事	長沢 法行	東海北陸ブロック常任幹事	清水 勇己
近畿ブロック常任幹事	高瀬 昌幸	中国ブロック常任幹事	山野 博司
四国ブロック常任幹事	小出 良明	九州ブロック常任幹事	芳賀 宣門

■北海道ブロック

北海道組合幹事 今野 義正

■東北ブロック

青森県組合幹事	平井 清治	岩手県組合幹事	古澤 淳
秋田県組合幹事	佐藤芳太郎	山形県組合幹事	小野禮次郎
宮城県組合幹事	桜井 俊一	福島県組合幹事	佐久間勝也

■関東甲信越ブロック

茨城県組合幹事	大石 敏行	栃木県組合幹事	後藤 忠夫
群馬県組合幹事	加藤 力男	埼玉県組合幹事	渡辺 勝郎
千葉県組合幹事	山崎 篤	新潟県組合幹事	石黒 貞夫
長野県組合幹事	小池 正孝	山梨県組合幹事	古郡 心力

■東京ブロック

東京都組合幹事 佐久間 久

■神静ブロック

神奈川県組合幹事	青木喜代司	静岡県組合幹事	長沢 法行
----------	-------	---------	-------

■東海北陸ブロック

愛知県組合幹事	古谷 一	三重県組合幹事	中森 久夫
岐阜県組合幹事	山内喜三男	富山県組合幹事	大野 猪策
石川県組合幹事	神戸 宏和	福井県組合幹事	清水 勇己

■近畿ブロック

滋賀県組合幹事	片岡 昭芳	京都府組合幹事	能勢 博
奈良県組合幹事	大森 武司	和歌山県組合幹事	高瀬 昌幸
大阪府組合幹事	出口 光男	兵庫県組合幹事	西山 静夫

■中国ブロック

岡山県組合幹事	木村 靖	鳥取県組合幹事	馬場 茂
島根県組合幹事	鳴崎 忠夫	広島県組合幹事	草野 泰則
山口県組合幹事	山野 博司		

■四国ブロック

香川県組合幹事	前川 竹一	愛媛県組合幹事	宮本 周矩
徳島県組合幹事	小出 良明	高知県組合幹事	木村 浩二

■九州ブロック

福岡県組合幹事	芳賀 宣門	佐賀県組合幹事	指山 多利
長崎県組合幹事	安永 胤利	熊本県組合幹事	瀬崎 憲光
大分県組合幹事	下村 栄次	宮崎県組合幹事	南谷 静馬
鹿児島県組合幹事	西村 勤	沖縄県組合幹事	城間 政信

実践カウンターサービス

最近の事故事例に見るカウンターでの事故防止対策

THE COUNTER SERVICE

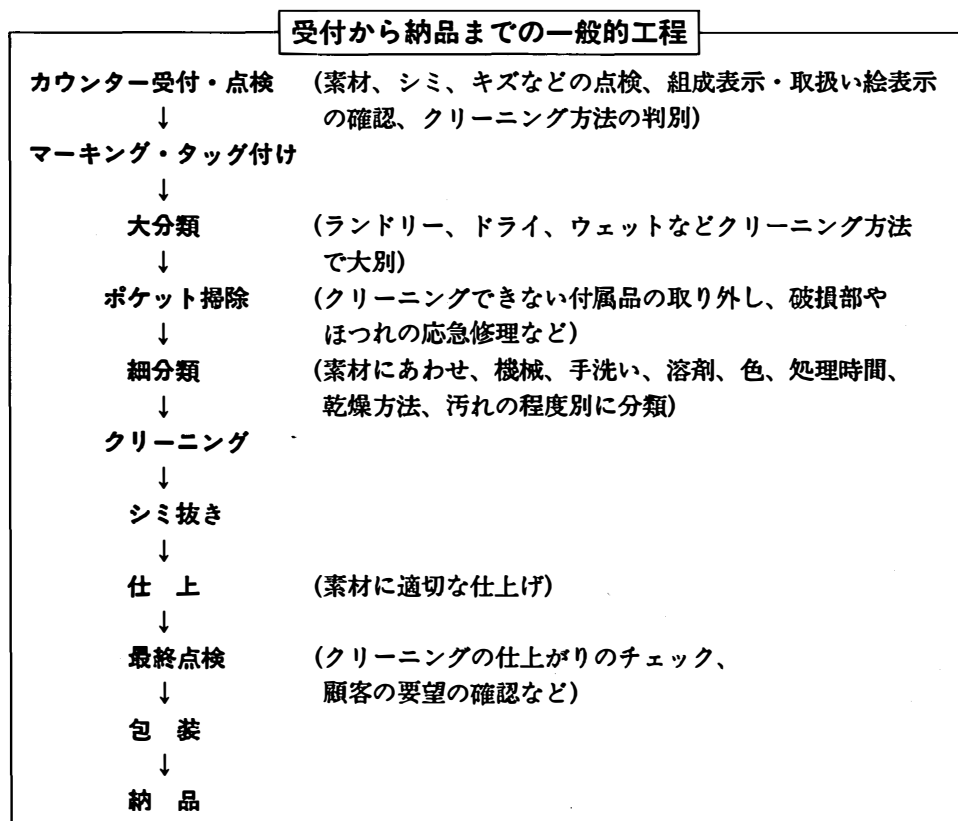
顧客がクリーニングに持ち込む衣服にはさまざまな変化が生じていることが多く、クレームが生じて研究所へ送られてくる事故鑑定依頼書には「受付時の確認が不十分であった。」「最初からこうなっていたのかもしれない？」などの記入もしばしば見受けられます。

カウンターで顧客と相互に確認しながらの点検が十分になされ、その点検事項が正確に伝わるシステムが整備されていれば、事故がたとえ起きたとしても、どの工程で生じたのか明確にすることができ、その原因についても特定することが容易になります。さらにその対応策を講じることで、事故の再発を防止することができ、クリーニングの品質向上へとつなげることができます。

本号では、基本に戻って、システムの再検討、マニュアル作り、その実践に役立つよう、いくつかの着目点を、実際に研究所に送られてきた事故品などを参考に解説しますので、是非参考になさって、明日の仕事にお役立て下さい。

I. 受付から納品までの一般的な工程

クリーニングの受付から納品までの流れを下図に示す。カウンターで確認した素材に関する注意、顧客の要望などが最終工程まで流れなければならない。それらの点検事項が正確に伝わるシステムの確立、個人差のないマニュアル作りが必要である。



II. カウンターでの受付・点検の実際

品物を顧客と相互に確認しながら点検することが大切である。

1. 品物の状況を点検する。

- ・素材、組成表示・取扱い絵表示など（事例①－1、①－2）、
- ・ポケットの中、
- ・汚れ、シミ、脱色、変退色（事例②－1、②－2）、
- ・カビ、破れ、キズ、スレ、コゲ、変形、縮み、ほつれ、虫食い、毛羽立ち（事例③）
- ・毛倒れ、ボタン・飾り・ファスナーの状況（事例④－1、④－2）、
- ・加工、疲労度、プレス状況など。

〈表示の確認が事故を防止できた可能性のある事例〉

事例①－1

★表示などを隅々まで点検する必要がある。

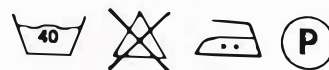
右図は大人用のパンツが子供用のように収縮したイタリア製のストレッチパンツの表示。ストレッチ素材の緩和収縮と考えられるが、日本の表示を見落としたことでメーカー責任を全面的に問えなかった事例。



事例①－2、③

★様々な素材が出回っているので、
素材の確認は必ず行い、素材に適した取り扱いを行う。

◀組成表示：レーヨン、毛、絹
取扱い絵表示：



パークによる通常の処理工程で絹繊維がフィブリル化し、毛羽立ちが生じたイタリア製高級ブランド紳士スーツ。点検時にその兆候が見出せた可能性もある。また、絹繊維を考慮した取り扱い表示と取扱いが望まれる事例。

〈思い込みによるクレーム事例〉



▲紫外線により退色した綿素材のジャンパー。
カウンターでの受付の時点ですでに退色が生じていたが、顧客は退色を知っていると思い込み、確認を取らなかったため、処理後にクレームとなったもの。

事例②- 1

★顧客は分かっているだろうと思い込む
と思いがけないクレームになる。確認
を取り必ず記録する。



▲肩付近の退色が著しく、
肩章で隠れていた部分が元の色

〈カウンターですでに変退色の兆候が生じていた可能性のある事例〉

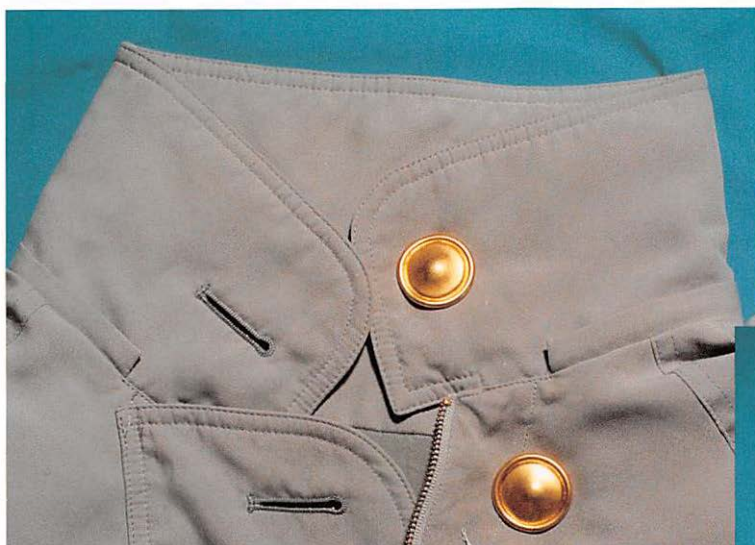
事例②- 2

★入念な点検が必要。
クリーニング業者の
責任を回避するには
退色防止用の照明に
する、クリーニング
店に長く保管しない
など万全を期したい。



▲保管中ハンガーに掛けていたと思われる着物（紫外線により肩から袖へ放射状に変退色している。）

〈点検時に付属品に注意を払わなければならない事例〉



事例④－１

★ファッション性を高めるため付属品も多様化している。十分な配慮が必要。

▲ボタンの周囲が点々と脱色したような状態になった新合繊（ポリエステル）の綿入れのハーフコート。

柔らかい生地に対して金属製の重いボタンが用いられていたため、クリーニングの機械作用によりボタンの周囲が脱色したようになったもの。ボタンを布で包むなどの処置をしていれば防止することができた可能性がある。



▲ドライクリーニング（パーク）処理で塗装がはげ落ちた皮革ボタン

事例④－２

★一般に皮革ボタンは染色が弱いので、あらかじめドライクリーニング処理に対する染色堅牢度をチェックし、色落ちする可能性があれば取り外して処理することが望ましい。その場合は取り外しをお客様にお願いすることが望ましい。

2. 附属品の数などを点検する。

フード、カフス、衿、リボнтаイ、ベルト、デザインボタン、エンブレムなど取り外し可能な付属品の数、クリーニング依頼の有無、受付時での返却などを明確に記録しておく。

3. より注意を払うべき衣服を点検する。

- ・毛皮製品、皮革製品、高級ブランド品、
- ・絹和服、高級綿製品、高級獣毛製品（事例⑤）
- ・薄起毛製品（絹、テンスルなど）（事例⑧）
- ・特殊プリント製品、合成皮革製品、コーティング製品、人工皮革製品、フロック製品（事例⑥）
- ・パイル製品、モール製品、特殊加工素材製品、
- ・ラメ糸製品（事例⑦）
- ・特殊なボタン、スパングル（スパンコール）、ビーズ等の付属品の付いた製品、
- ・新素材の製品、ストレッチ製品、
- ・海外製品など

■変化しやすい製品は受付での事前の啓蒙活動を。

〈起毛製品は風合い変化を生じやすい〉



事例⑤

★起毛製品は着用、クリーニング中の機械作用などにより風合い変化が生じやすい。顧客には日常の手入れをすること、変化しやすいことを伝え、クリーニングは水分に注意し、短時間処理する。仕上げは軽くスチーミングし、ブラシをかけて毛並みを整えること。

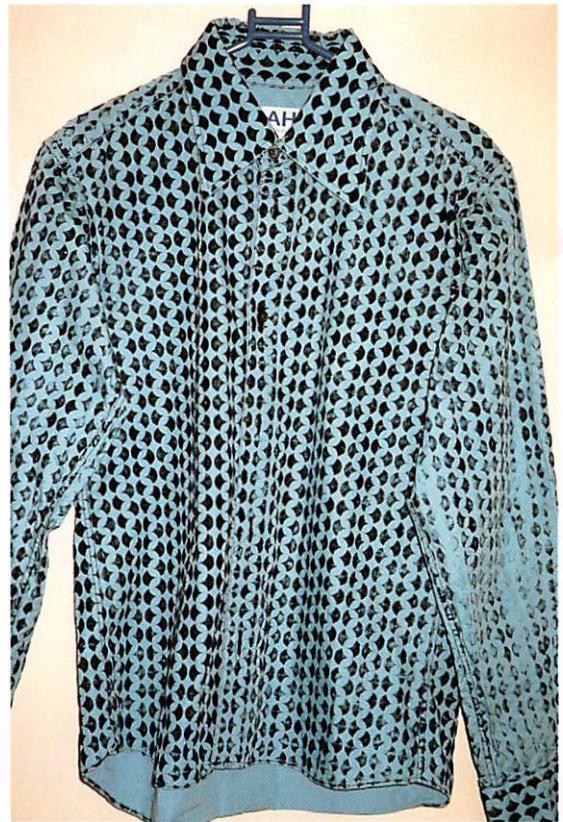
◀高級獣毛アルパカのコート。クリーニングで全体の風合いが変化したとのクレーム。

〈経時劣化しやすい製品〉

コーティング製品および接着製品の合成樹脂の経時劣化について、日本繊維製品クリーニング連絡会議作成の責任所在判断目安によると、耐用年数は2～3年とされている。これらの製品には、特殊プリント製品、合成皮革製品、コーティング製品、人工皮革製品、フロック加工製品などが含まれる。

事例⑥

★コーティング製品および接着製品は着用中の汗や紫外線(直射日光、蛍光灯など)などの影響により接着剤が経時劣化し、クリーニング処理中の物理的作用などで剥離・脱落が生じることがある。顧客へは、耐用年数は2～3年であること、年数が経っている製品であれば、剥離、脱落する可能性があることを受付時に知らせる。カウンターでは着用摩擦の生じやすい箇所などをチェックする。



▲フロックプリントの脱落したシャツ

〈ラメはアルミが脱落しやすい〉

事例⑦

★ラメは汗、保管中の湿気などの影響を受けて、アルミが脱落し変色することがある。



▲ラメ糸使いのサマーセーター、ラメ糸の金色がオレンジ色に変色した。

〈薄起毛製品は毛羽の状態が変化しやすい〉

事例⑧

★上下対の品物は必ず一緒にクリーニングに出すようにすること、絹やテンスルなどの薄起毛製品は毛羽の状態変化によっ色味に変化が生じやすいことを顧客に伝え、カウンターでは上下に色の差のないこと、袖口、衿など、着用摩擦を受けやすい部分などのチェックを行う。

絹の薄起毛生地を使った高級ブランドスーツ上下を同浴で処理したが、キュロットスカートに著しい毛羽が生じ白っぽく見えている。



4. 顧客の要望を聞く。

洗い方の要望(ドライ、水洗いなど、予測される変化などについては了解を得る。)シミなどについての確認・要望事項など。その他の要望、注意事項(形見の品)など。

〈顧客の了解を得た処理が必要〉



▲顧客の依頼を受けウエットクリーニングしたが色泣きした夏物のスーツ。染色堅牢度など、確認の必要がある。

事例⑨

★ドライ表示の夏物衣料の点検は入念に。取り扱いにも十分注意する。

夏物衣料などで水洗い不可の衣服にウエットクリーニングを勧めたいときには、色の変化、風合変化、形態変化などが生じる可能性を伝え、了解を得ることが必要。

5. 相互に点検・確認した内容を記録する。

◎伝達のシステム化

- ・点検時に相互確認した内容や、顧客の要望などを記録し、クリーニング処理に反映させる。情報は正確に記録し、確実に伝達されるようにシステム化することが重要。
- ・記録用紙、記録方法（印刷した図柄への記入方法など）、添付する位置（タグの位置など）を統一する。

6. 最近の衣料品の特徴を顧客に知らせるなど、コミュニケーションをはかる。

最近の衣料品、新素材の開発、ファッションの多様化、変化について、販売店、雑誌その他で情報収集につとめ、顧客に伝えることや、取扱い、着用、クリーニングでより注意を払うべき衣服についての情報を折りある毎に知らせることなど、カウンターでの啓蒙活動につとめること。それらの積み重ねが、衣服ケアのスペシャリストとしての信頼を深めることになる。

III. まとめ

カウンターサービスとはカウンターでの点検だけを指すのではありません。受付・点検から始まってお客様に品物をお返しするまでのトータルなシステムが完備していること、また衣服ケアに関する情報発信の最先端であることを意識することが大切です。カウンターサービスが充実し、システムとして整備されていれば、ここに取り上げた事故は起こらない可能性もあるし、また起きたとしても、「洗ったのだからクリーニングが悪い。」という典型的なクレームとはならず、何に原因があったのかを顧客に納得してもらえるようになるでしょう。また、その事故原因の特定が容易になり、再発を防ぐことができる可能性は大いに高まります。事故を100%くい止めることは不可能ですが、カウンターサービスの充実で減らすことは可能ではないでしょうか。

1. 品物の状況を点検する。**2. 附属品の数などを点検する。****3. より注意を払うべき衣服を点検する。****4. 顧客の要望を聞く。****5. 相互に点検・確認した内容を記録する。****6. 最近の衣料品の特徴を顧客にお知らせするなど、コミュニケーションをはかる。**

これら一連のカウンターサービスを日常業務として定着させるためには、マニュアルに従って、常に手を抜かずに衣服を点検する、顧客とコミュニケーションにつとめるなど、日々のトレーニング以外に方法はありません。

【シミ抜きの実践応用技術②】

ラーメン汁のシミ抜き方法**§1. ラーメン**

中国四千余年の悠久の歴史は、そのまま「食」の歴史とも言えます。世界の黎明期にいち早く煮る料理が生まれた昔の中国で「ラーメン」が誕生したことまでは確です。しかし、現在の中国には日本でいう「ラーメン」に相当するものやその言葉すら見当りません。唐時代以前から中国には小麦粉を肉汁の冷えたものでよくこね細く指でもみ延ばしながら湯に入れて煮る湯餅と称する今の麺に似た粉食がありました。これが現在中国の湯麺のルーツです。その長さで命の長さをかけて、子供が生まれた時にその長寿を祈って食した習慣が、今でも中国各地に残されています。これらの麺は後世になって薄く延ばしたものを端から包丁などで細く切って作る切麺へと発達してゆきますが、もとは麺を手で引き延ばす「拉」という動作によって作られる拉麺すなわち「ラーメン」であつたのです。

日本では明治の末期から支那そばという名が使われるようになり、横浜には中国人経営のそば屋ができ大いにはやつたようです。けれど、この時代はまだ麺と豚骨から採った醤油味のスープだけで、東京ラーメンのオリジナルスタイルそのものでした。支那そばもラーメンという名が全国的に定着する頃には、麺もスープも具もなにもかも完全に日本風に姿を変えていきました。関東大震災後、昭和の初期の頃です。今日のように多種多様な日本風ラーメンに変貌してきたずっと以前の話です。

この美味しく大衆的な食物・ラーメンですが、大切な洋服に汁を付けてしまったので、どうしてシミを取ったらよいのでしょうか？……という話をよく耳にします。

「ラーメン」／ 日本ラーメン研究会編より

【ラーメンの汁はどのような成分？】

シミ抜きの対象はラーメンのスープですが、一般的には鶏がら、豚骨、野菜、コンブ、カツオブシなどを入れて長時間かけて煮込んであります。シミという観点から見ると、これらの成分は主として、動物性脂肪、植物性油、タンパク質、などです。特に熱い汁がシミ付き、時間が経過するにつれ、取れるシミも取りにくくなります。



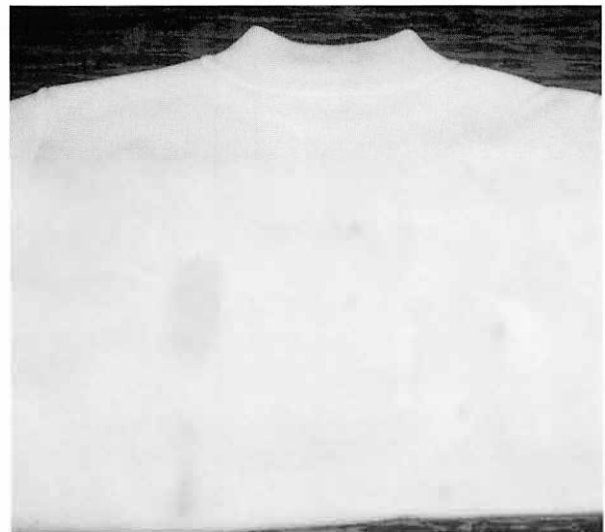
【シミ抜きに使用する薬品と器具と道具】

- ・ドライ溶剤、モノクロロベンゼン、タンパク分解酵素、中性洗剤(非イオン系)、過炭酸ナトリウム、過酸化水素3%液(オキシドール)
- ・ヘラ、ブラシ、超音波洗浄器



【シミ抜きのポイント】

- ・この商品はウール 100 %のセーターです。お客様からお預かりした時にラーメンのシミと聞いています。(付いてから10日位たつそうです。)
- ・ウール 100 %のセーターですので、先ずは一応ドライクリーニングを行ないます。
- ・ラーメンのスープには動物性油脂と植物性油が入っていると考えられます。シミ抜きの基本である油性処理から行い、続いて水性処理、更にシミが残る場合、タンパク分解酵素、更にシミが残る場合は漂白処理の順で行います。



【シミ抜き処理】

- ①油性処理に当って、モノクロロベンゼン：ドライ洗剤＝6：4のシミ抜き剤を作ります。
- ②シミを中心とした周辺にドライ溶剤をスプレーします。

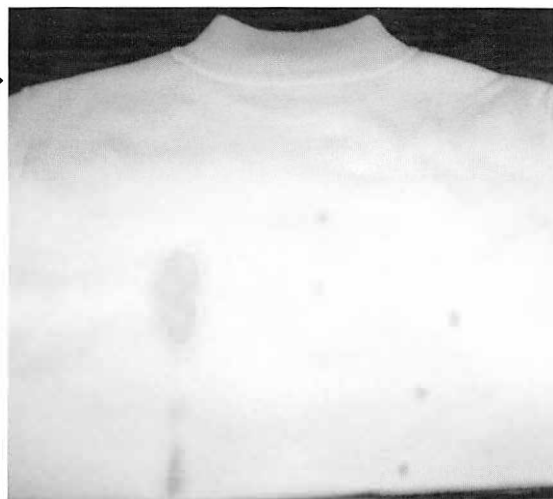




③④で作った油性シミ抜き処理剤をシミの箇所に付け、浸透したところを見計らってヘラまたは超音波シミ抜き器を使用して処理します。(ヘラの使用に際してはヘラを往復させない、強く力を入れない、また、続けてシミ抜き剤が必要な場合は乾かない内に追加するなどがポイントになります。)

④シミが取れにくい場合には、この操作を2～3回繰り返して行います。(または、人差指と親指で生地をはさみ、軽く揉む操作をすることもあります。)

⑤油性処理が終わったら、ドライ溶剤ですすぐ出し乾燥させます。



⑥次は水溶性の処理に入ります。最初に精製水をシミの周辺にスプレーします。シミの部分に中性アルコール洗剤を付けて、ブラシまたは超音波洗浄器を用いて緩やかに力を加え1～2回繰り返します。

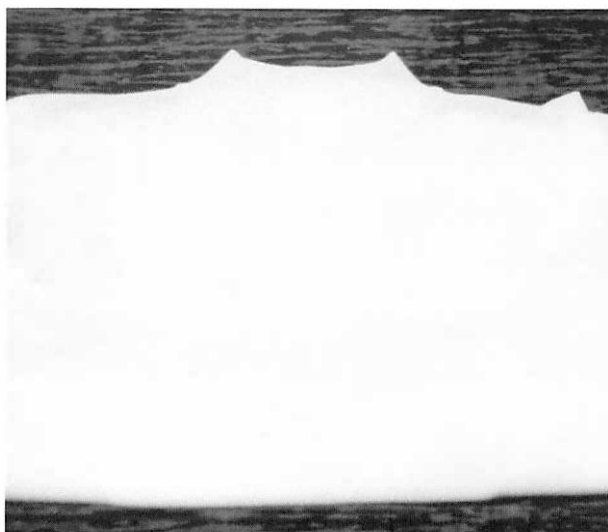
⑦シミが残る場合はタンパク分解酵素を使用します。

⑧まだ、シミが残っている場合、綿、ポリエステル系の白地であれば、過炭酸ナトリウムを使用して漂白します。

本品はウール地100%のセーターですので、過酸化水素3%水溶液(オキシドール)を使用して漂白します。

⑨漂白剤を使用した場合、中和を行って下さい。

⑩中和の後は精製水でよくすすいで下さい。

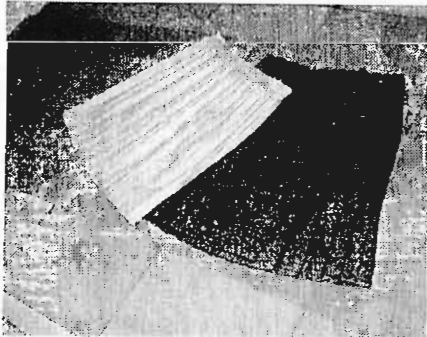


*お客様が持ち込む以前に、あらかじめ水又はシミ抜き剤等でシミをいじっていないことを前提としている。

*生地のスレや輪ジミなどの変化を含めて、繊維や染色に対する安全性を十分に確認する。

協力：全日本みけし洗い研精会

12月16日



まだまだ人気の
スカート

スリット入りのスカート カートはまだまだ売れて荷するとすぐに完売するの動きが鈍り、パンツをいる。〇上を主力客層と状態だ。とくに人気があるのは、裾にレースをあ

「あれば売れる」

[illegible]

12月6日



トレンッド・パワー 健在 東京ストリート

チェックに花柄、フエークファアのトリミングコートにプチファーマフラー・九七〜九八年秋冬のトレンドが勢ぞろいといったスダードにもストリートで今年

花にチェックに
プチファーマフラ―

イルの女の二人組を渡谷
でみつけた。
トックルボタンのダツ
フル風シヤットにター
チエツクのロングス
カートを合わせた東
京ストリート

売
れて
ます

ファイナル
ステージ

フード、毛付きのウールロングコート



女子高校生の背伸び志向で

婦人服専門店のフライングスティージでコートが売れている。豪華なフライングのウール使いロング丈が売れ筋の筆頭。二万五千円、色はキャメル。七万九千円。雑誌に掲載された効果もあり、女子高校生たちの「背伸び志向」の流れにのって売れている。

同店を出店しているエスシステムは今秋冬、コート型の型数を増やし、供給体制を整えて十月第二週から立ち上がった。これが当たり、合成皮革のスイードを使った細目のトレンチタイプ（二万七千円、四万六千円）、ダッフルのロング（二万五千円、五万九千円）、シル使いやダークカラーのアニマル柄（二万〇千円）も伸びており、立ち上がりから一カ月売上げは前年同期比二・二倍だった。

は前年同期比二・一二倍だった。

技術部会新入会者

次の方々が新たに技術部会に入会されました。

氏 名	店 名	〒	県 名	住 所	電話番号
〔正 会 員〕					
今 井 康 夫	白 羊 舎 ク リ ー ニ ン グ	035-0054	青 森	むつ市海老川町2-8	0175(22)2625
崎 本 高 司	衣 料 の 美 容 室	652-0807	兵 庫	神戸市兵庫区浜崎通1-35	078(671)2292
田 中 雅 仁	田 中 ラ ン ド リ ー	671-1114	〃	姫路市広畑区本町5-625	0792(36)1494
宮 本 錦 一	ク リ ー ニ ン グ 宮 本	671-1131	〃	姫路市大津区天神町2-158	0792(36)2438
三 宅 哲 夫	(有) パ ー ル ド ラ イ	850-0822	長 崎	長崎市愛宕3-19-6	095(826)2131
門 脇 与 昭	S P ク リ ー ニ ン グ	059-0012	北 海 道	登別市中央町3-17-3	0143(85)4435
内 田 吉 計	(有) 美 幸 ク リ ー ニ ン グ	051-0022	〃	室蘭市海岸町3-11-8	0143(22)6084
福 地 大 祐	福 地 ク リ ー ニ ン グ	050-0065	〃	室蘭市本輪西町3-30-2	0143(55)7356
佐 藤 勝	新之丞クリーニング工場	015-0041	秋 田	本荘市薬師堂字谷地310-2	0184(22)5539
佐 藤 鉄 弥	ハトヤクリーニング店	425-0086	静 岡	焼津市小土672-1	054(628)0749
岩 本 新 一	(有) 白 栄 舎 ク リ ー ニ ン グ 工 場	410-0048	〃	沼津市新宿町4-2	0559(21)2918
今 野 雅 信	今 野 ク リ ー ニ ン グ	999-4111	山 形	北村山郡大石田町大字大石田甲136	0237(35)3159
齋 藤 郁 夫	アイビークリーニング	999-8235	〃	飽海郡八幡町観音寺町後74	0234(61)1234
加 藤 義 三	かどやクリーニング店	606-8203	京 都	京都市左京区田中園田町39-10	075(761)3908
池 田 義 慶	(有) ト ッ プ ド ラ イ	712-8044	岡 山	倉敷市東塚6-1-3	086(456)5057
岩 沢 圭	岩 沢 ラ ン ド リ ー	248-0033	神奈川	鎌倉市腰越1602	0467(32)2534
〔購読会員〕					
滝 昌 士	(有) エヌ・ティ・エム・ジャパン	661-0964	兵 庫	尼崎市神崎町38-16	06(497)2311
中 山 峰 子	(有) セ ー ホ ー	238-0026	神奈川	横須賀市小矢部2-304	0468(52)8939

新会員の募集にご協力を

クリーニング技術部会では常任理事の方々を中心に、各都道府県組合の技術部会幹事と連携した各ブロック単位で技術交流会を開催するなど、地域における技術部会活動の活性化とあわせて、会員数3,000名を

目標に組織の拡充、強化を図っております。

組織拡充、強化のために会員の皆様にも新会員の募集に是非ご協力いただくようお願いいたします。入会の申込みは所属の環同組合経由で随時受け付けております。

技術情報

1月号 No.27-10

1998年1月10日発行

技術部会の加入申込み、技術情報に関する問い合わせなど事務の一切はクリーニング総合研究所で受付けております。

発 行 全国クリーニング環境衛生同業組合連合会
クリーニング技術部会
〒104 東京都中央区銀座7丁目5番4号
毛利ビル

TEL03-3571-2391 FAX03-3574-0866
編 集 クリーニング総合研究所
〒245 横浜市中区秋葉町4-7-2
TEL045-811-3639 FAX045-812-5176

代表者 村瀬 健一
定 価 2,000円